

3 パネルディスカッション 議事録

(1) 市民との協働について

【司会 武蔵野市長】

市民参加・市民との協働の取り組みは、各市で行われているが、特に環境分野については市民の関心も高い分野なので市民との協働、市民に期待することについて伺いたい。

【調布市長】

リサイクル率については、市としてもPRを強化しており、市民の協力により向上している。今後もさらに高めたい。

ごみ処理施設については、施設の老朽化が問題になっていたが、次の施設の建設までに30年もかかった。反対もあったが、ご理解、ご協力をいただけるようになり、建設的議論もできるようになり、このたび「クリーンプラザふじみ」として稼働となった。

里山の保全については、市民の協力を得られるようまず理解してもらわなければならない。全市のためにお願ひできませんかという雰囲気醸成していくところが難しく、時間のかかる問題だ。

エネルギー問題については、3.11以降、環境の問題、電気の問題について、まず市民の方が立ち上がり、公共施設の屋根貸しをさせてくれないかと働きかけがあった。事業はこれからだが、市民の意向を受け、利益は市に還元するので、議論、協働を進めて、市はできるだけ支援していきたい。

さまざまな問題で市民と行政は意見が対立することもあるが、粘り強く話し合い、課題を解決していかなければならない。

【東村山市長】

市政全体に言えることだが、特に環境分野では、市民の理解、協力がないと先に進まない。市民の考え方、感じ方も多様な領域であり、総論では賛同いただけるが、落ち葉問題など具体的にはさまざまな声があり、保全については市民同士の合意形成が大きなテーマになるのではないかと。ゴミの問題でも、全く燃やさない、埋め立てないという方もいれば、いつでもごみを出せるようにしてほしいという意見の方もいて、市民の考え方は幅広い。

エネルギーの問題、特に原子力発電についてどうするのかは、大きなテーマである。基礎自治体としてどういうことが可能か。どこまで税金を投じていけばいいのか、市民的議論を深める必要がある。

いろいろな考え方の市民がいる中で、行政としては、努力目標を立てて、市民と思いを共有しながら、一人ひとりができるところでやっていただくという枠組み、そのための議論の土台をきちんと作っていくことが重要ではないか。

【福生市長】

環境分野について市民の関心は高い。福生市では、平成 16 年度に制定した「福生地域新エネルギービジョン」で、2030 年までに 2004 年比で CO₂ を 50%削減する極めて高い努力目標を市民と協働で設定した。その後、東日本大震災の影響により、発電にかかる温室効果ガスの状況等の変化や、市域の 1/3 を提供している横田基地の影響等もあり、目標達成は難しい状況である。

4 市 3 町 1 村の中に 40 万人住んでいる西多摩地域でも、少子高齢化の波を受け、人口減少が始まっている。環境分野と商業の活性化を考えながら、福生市では「次世代モビリティ活用モデル事業」でカーシェアリング、サイクルシェアリングを行い、電動自転車を使用し、環境分野に訴えながら、この町は活性化しているというシティセールスを行っている。

【東久留米市環境部長】

緑地を公有地化してほしいという意見が多い。東久留米市で市民の方からお借りしている緑地は約 3 万 m² ある。それを全部公有地化するというのは、難しい状況である。ナショナルトラスト活動を市民の方にもご協力をお願いしている。

特に東久留米市では農地が多く、生産緑地として残っている農地がある。平成 34 年度には、30 年を経て買い取り申請が可能になる。今後農業に携わる方々に相続税対策として、後継者不足に関する諸問題について、市民と一緒に考えていかなければいけない問題である。

(2) 自治体連携について

【司会 武蔵野市長】

まちづくりを進めていくうえで、自治体の連携の視点がますます重要になってきている。環境分野における自治体連携の提案について伺いたい。

【東久留米市環境部長】

現在環境にかかわる広域的な取り組みとして、公害事務連絡協議会とか野火止用水保全対策協議会で、各市との情報交換を行っている。立川崖線の話とか、共通の課題、目的をもって行う部分については、今後も連携は必要である。シンポジウムをきっかけに、つながりが広がっていけばいいと考えている。

【福生市長】

ごみの焼却場は、西多摩衛生組合（青梅市、羽村市、福生市、瑞穂町）で運営しているが、住民の方たちに、常に情報提供しながら、また説明しながら運営している。これから多摩 26 市は、ごみなど環境施策だけでなく、さまざまな課題にもっと連携が深めていかな

いとやっていけない時代がくるのではないか。

【東村山市長】

すでに多摩のごみの最終処理はほぼ全域の25市1町で共同処理するなど自治体連携を行っている。今後は、焼却処分するだけでなく、そこから出る熱をどうエネルギーとして有効活用していくかが各市でも課題である。こうした熱エネルギーや再生可能エネルギーの活用を図り多摩が先進的にスマートシティ化していくという決意と意気込みをもって、市長会などでも、これから他市と連携を深めていきたい。

【調布市長】

まず、どういう分野でどういう連携ができるかを積極的に心がけることが大切。共同処理場やISO14001で、複数の自治体で監視体制をつくったり、8市で多摩川の環境を守るような枠組みを作ったりして、高く評価されている。さらに今年、府中、日野、多摩、稲城、狛江市に呼びかけており、大きなテーマの中には当然環境も入るが、さまざまな問題でも連携ができてくると思う。

農地等の保全は大きな問題で、1市では難しい。農地制度とか財政的な問題について、一緒になって国や都に働きかけるなど、必ずしも隣接していなくても、いろいろな合従連携がある。それを心がけて、働きかけて連携を深めていきたい。

多摩全体ということでは、25市1町で、東京たま広域資源循環組合というゴミの処理団体を作っている。今まで埋め立てていた焼却灰を、数年前からエコセメント工場を作って、セメント化し、環境にやさしいセメントとして多摩地域のあらゆる公共事業、道路や広場を作るときに、多少コストは高くても優先的に使ってもらおうということをやっている。この事業は、26の自治体の協力で出来上がったもので、近年でも大きなシンボリックな決定であったと思う。この場を通してヒントを得ながら推進していきたい。

(3) 質疑応答

【質問1】 落ち葉について

各市で落ち葉についての取り組みの工夫はあるか。

【東村山市みどり環境課長】

昨年まで市内の公園で落ち葉を堆肥化し、公園で使用していた。放射能の影響で今年からとりやめとした。また新たな方法を考えていかなければならない。桜も花びらや落ち葉を地域の方々に清掃していただくかというところが非常に問題になっていて、今後木の剪定も含めて考えていかなければならない。

【質問2】ごみ発電について

調布市の「グリーンプラザふじみ」を見学した。武蔵野市でも、これからゴミを熱として回収して、是非エコの方に使ってほしい。

【調布市長】

新しい施設を作るとき、その後のメンテナンス、運転資金は財政面で大きい。ゴミを焼却し、電気を作り、売って収入を得るとするのは、魅力的なことだが、たくさん発電するためにはたくさんのゴミが必要で、予測に組み込むのは難しい。そうはいつても、無理のない範囲で減量をお願いしながら、収入もあげていくということを、今後とも追求していきたい。

【質問3】農地について

武蔵野市も3%位まだ農地があり、野菜を給食で使ったりして、約30%だが、自給率も上がっている。ところが実際に農地というのは遺産相続等の問題で減っていく。都市農業を守るというか、農地の保全を、これを機会にスクラム組んで動いてほしい。

【東村山市長】

多摩地域の市街化区域に農地のある自治体すべてが加盟している「都市農地保全推進協議会」という団体がある。毎年、国、都に要請活動をしており、税法の改正や生産緑地制度の堅持等をお願いしている。また、東京選出の国会議員にも毎年要請活動をしている。すぐに相続税法を都市農地保全の方向に切り替えてもらうのは難しいが、粘り強く市長会、協議会を通じて、国の方に働きかけていきたい。

(4) 閉会挨拶 武蔵野市長

どうもありがとうございました。今日は各市の取り組み、各市長のお考えを知ることができ、有意義であったと思います。これからもそれぞれの自治をベースに連携しながら地域の力を育み、環境問題だけでなくさまざまな行政課題に対応していきたいと思います。市民の皆様におかれましても、今後ともご協力くださいますようお願いいたします。